

術前休薬後の再開薬を確認し処方変更を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、調剤時に術前休薬後の再開薬と持参薬を確認し、処方変更を提案することで、適切な薬物療法に貢献したプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患に対して手術目的で入院された患者

【持参薬（一部抜粋）】

- ・ ジャディアンス錠 10mg

※手術前にジャディアンス錠の休薬指示が出ていた



〇さん

循環器内科からフォシーガ錠が 1 日 1 回 5mg で新規処方されている。フォシーガ錠は慢性心不全に対しては通常 1 日 1 回 10mg を投与する薬剤¹⁾のためカルテを確認してみよう。

カルテでは、ジャディアンス錠を術前休薬しており、術後再開薬としてフォシーガ錠 5mg が処方されていた。持参薬の内容と異なり、慢性心不全に対する用量も通常用量と異なるため、フォシーガ錠の用量変更もしくはジャディアンス錠への変更を確認してみよう。



医師

フォシーガ錠 5mg を処方されている 〇さんですが、フォシーガ錠は慢性心不全に対しては通常 1 日 1 回 10mg になります。用量の変更もしくは、もともと服用していたジャディアンス錠 10mg への変更はいかがでしょう。



薬剤師

もともとジャディアンス錠を服用していたのでしたね。
確認ありがとうございます。
それでは、ジャディアンス錠へ変更しましょう。

その後、フォシーガ錠の処方が削除となり、ジャディアンス錠の処方と再開指示がなされた。調剤時に術前休薬後の再開薬と持参薬を確認し、処方変更を提案することで、適切な薬物療法に貢献できた。